

王室ファッション裏話

…服飾史家・中野香織…

②



「エリザベス1世(アルマダの肖像画)」
作者不詳 1588年ごろ 油彩/板 ロンドン
・ナショナル・ポートレートギャラリー蔵
©National Portrait Gallery, London

威厳と象徴の振る舞い

コルセットで締めあげ、フ
ーディングゲール(鳥かご)と
いうスカート拡張下着を装着
して、スズメバチ型のシルエ
ットを創出する。スカートを
広げるのは、ドレープに邪魔
されないように宝石やリボン
を誇示するためでもある。

首元のラフ(鬘襟)は当時流
行の装飾で、首をふらつかせ
ない働きもあったので、部下
に断固と命令を下す時に威力
を発揮した。重ね付けした口
ングネックレスのみならず、

ドレスにもヘッドピースにも
真珠がふんだんに使われてい
る。新大陸や東洋で潜水作業
員たちが命がけで採取した希
少で高価な天然真珠である。

満艦飾で威厳をまとい、白
塗りメイクでイングランドの
象徴として振る舞った女王エ
リザベス一世。だが、この
後、不況に見舞われ、絵の真
珠は売却された。つかの間の
虚飾。死の原因がメイク用品
に含まれていた鉛であったの
は、なんと皮肉なことなのか。